

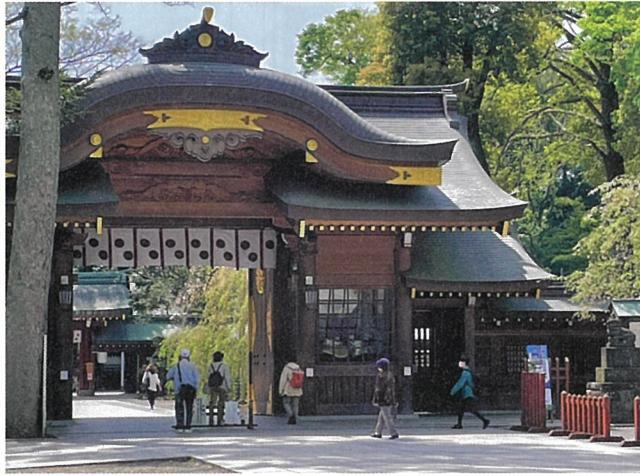
街を行く

第136回 府中 Fuchu

ケヤキ並木は最高！



街を南北に走る「けやき通り」は府中のシンボルである大國魂神社へ繋がる参道



「新宿」から京王線特急で20分、「明大前」を超えて「調布」の次となるのが今回ご紹介する「府中」です（編集部注：現在京王線の特急は「笹塚」と「千歳烏山」にも停車）。

街を南北に走る「けやき通り」は、府中を語るうえで欠かせない大國魂神社に繋がる参道でもあります。この手の名所旧跡までのアクセスは、最寄り駅からバスというのが大方ですが、こんな便利なロケーションにあるケースはかなり珍しいですね。

大國魂神社は西暦111年の創建。時は弥生時代、海外ではローマ帝国が栄えていた頃、つまり、かなり昔ということです。祀られているのは「大国主大神」で出雲大社と同じ。小生は日本むかし話に登場する「いなばの白兎」を助けた大黒様と同じ神様と思っていましたが、まったく別モノのようです（皆さんも混同されていたのではないでしょうか？）。通りのケヤキ並木の佇まいは、まさに都会のオアシスそのもの。新しく開発された街の憩いの場は、そこはかとない

ワザとらしさが漂っているのが大抵ですが、府中のように歴史ある街はまったく異なります。こんな雰囲気のよい街なら郊外で暮らすのもよいものだな、という気になります。

ご多分に漏れず、この街でも駅前再開発が進んでいます。特色ある街が再開発のあと、小ぎれいだけど何の変哲もない姿へ変わり果てるのを沢山見てきたからか、けやき通りの自然を残し活かしている点には非常に好感がもてましたよ。駅ビルを降りて、街のシンボルである並木がすぐに目に入り、とても気分がよくなったのです。

駅周辺のビルには、一通りナショナルブランドの飲食・雑貨店が入居していますが、そのサインや看板は周囲からは見えません。それを不便に思う方もあると思いますが、街の美観的に大きな優位性となっています（サインボードが目の前に現れると、どんな特色ある街も魅力がスッパ消え、陳腐な印象になってしまうのです）。そうならないために地元密着の飲食雑貨店が街の

文化の一つとして永く生き残っていけるよう応援したいです。

もちろん現実路線では、昔ながらの商店街をそのままのかたちで維持し続けるのは困難でしょう。古い店とナショナルブランドは共存できないものでしょうか。小生は住民の皆が利用すればやっていけると思います。むづかしいけれど、最も手っ取り早く、当たり前の「まちおこし」かも知れません。まちおこしは新しい突飛なアイデアを生み出すことではなく、本来の街の特色を現代に取り戻すことなのですから。

南一弘



1982年大学卒業後、三井不動産販売に入社。ローンスター・ジャパン・アクイジションズを経て、2001年エースト・ジャパン・エルエルシーを設立。同代表に就任。2005年4月MID都市開発(旧松下興産)の代表取締役に就任。2006年ジャパン・アセット・アドバイザーズを設立。同代表取締役に就任。